

## 高木仁三郎市民科学基金 助成研究/研修 完了報告書

提出日：2007年 5月 1日

1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	丸浜江里子
連絡先・所属など	〒168-0082 杉並区久我山5-15-22 電話03-3331-4533 Eメール：e-maruha@jcom.home.ne.jp
調査研究・研修のテーマ	杉並における初期原水禁運動と「杉の子会」

2. 調査研究・研修結果の概要

1954年、アメリカのビキニ環礁での水爆実験により第五福竜丸が被曝したのをきっかけに各地で署名運動がおこったが、杉並は、「杉並アピール」をつくり、区立公民館を拠点に女性達中心に署名運動を全区的に展開し、大成功を収めた。この動きは全国に広がり、全国で3200万筆、全世界で6億筆という空前の署名を集めた。その後、杉並はこの運動の影響か、住民の気風か、比較的レベルで政治的関心が高い住民がすむ、市民運動の盛んな区となっていった。

しかし、50年後の今、杉並の学校では全国でたった2地区しか選ばなかった、戦争賛美の「扶桑社版歴史教科書」が使われ、じわじわと右翼的・強制的な教育が広がってきている。右翼的な区長の意向が教育現場に強く反映されている。そのことを知り、心痛める区民は少なくないが、有効な運動が展開できない。

あの時に、あのような署名運動を成功させた力はどこにあったのか、「杉の子読書会」等女性達はどのように考え、運動をになったのか、その力は継承されなかったのか、今、杉並の運動は何が必要なのだろうか。杉並で起こった最大の市民運動を研究する中で、知恵を継承したいと考え、研究に取りかかった。

公民館長であり、やがて原水協初代理事長となる安井郁と田鶴子夫妻が残された資料を中心に区内資料、第五福竜丸展示館、立命館平和ミュージアム、国会図書館資料および、聞き取りをすすめ、以下のことを明らかにした。

- 1, この運動の背景には町内会、愛国婦人会、消費組合など戦前のしくみ、つながりも大きな意味がある。戦中の杉並の歴史をさかのぼり、人々のつながりを考察した。
- 2, 運動を主導した公民館長安井郁・田鶴子夫妻の歩みをさかのぼる中で、杉並、とりわけ荻窪地域の地域活動が公民館活動の基礎をつくった。
- 3, 戦後の社会教育の理念の誕生と、高木区長と安井公民館長の協力で発展した杉並区社会教育は注目に値する。ここで育った人々が原水禁運動の主体となっている。
- 4, 運動をになった世代の戦争体験を検討し、戦争はもう繰り返したくないという意識が運動の原点としてあること、また、1950年代前半、朝鮮戦争直後の時代の影響も受けている。
- 5, 運動をになった「杉の子読書会」、および「杉並婦人団体協議会」の成り立ち、及び、それらの活動に参加した女性たちの分析。

2007年度は、それらの諸条件がビキニ水爆実験をきっかけに、どう結びつき、人々はどう活動し、原水爆禁止運動が広がったのかについて、研究をすすめ、初期杉並原水爆禁止運動史として、実証的に記述したい。その研究を通じて、杉並の初期原水爆禁止運動から何を継承できるか、現代の視点で考察していきたいと考えている。

## 3. 調査研究・研修の経過

2006年	
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度から始まった安井家資料整理を継続 (本年度は、2007年3月まで計20回、調査・研究)</li> <li>・ 聞き取り調査開始(杉の子会、婦人運動、気象研究所等の研究者、生協、魚商の遺族、平和委員会、女性史、築地、都衛生局検査官など4月～07年2月までに26人、延べ40人の聞き取りをする。顕著な方以外はここにまとめる)</li> <li>・ 明治大学山田ゼミで報告</li> <li>・ 「つくる会」教科書の解毒剤として「新しい歴史教科書の読み方」冊子発行</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第五福竜丸展示館にて、大石又七氏、安田館長の話を書く。</li> <li>・ 歴史学研究会大会(学習院大学)参加</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハンブルグ市(ドイツ)アルトナーレ祭見学(7日間) (ドイツの社会文化運動の先進地であるハンブルグの住民運動を学ぶ)</li> <li>・ 第21回安井資料研究会で原水爆禁止運動(吉田嘉清氏)の話を書く。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第五福竜丸展示館附属図書館にて資料調査(～3月まで計10回訪ねる)</li> <li>・ 杉並区図書館、郷土博物館、杉並区議会図書館、議会事務局等で資料調査</li> <li>・ 大原社研にて、資料調査</li> <li>・ 歴史教育者協議会大会(東京国際大学)参加</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「平和のための戦争展」(於:新宿)で戦争体験の継承を主テーマに報告</li> <li>・ 『杉並の市民活動と社会教育の歩み』別冊原水禁運動(安井家)資料発行</li> <li>・ 山村茂雄氏から戦後平和運動の話、生き字引のような方</li> <li>・ 明治大学山田ゼミ、自主ゼミで報告</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安井資料のなかの安井田鶴子資料を集中的に読む</li> <li>・ 『新しい歴史教科書の&lt;正しい&gt;読み方』に「杉並原水禁運動」執筆</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元杉並区議(川村、真々田氏)の話。昨日のこのように語ってくれる</li> <li>・ 資料整理と資料分析、執筆</li> <li>・ 明治大学山田ゼミで報告</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立命館平和ミュージアム(京都)の原水禁関係資料調査</li> <li>・ 1954年当時、杉並区にあった気象研究所の増田善信さんの話。</li> <li>・ 杉並民主商工会資料調査</li> <li>・ 築地市場調査(原爆マグロを検査・廃棄、当時の記録調査)</li> <li>・ 聞き取り(戦後杉並婦人運動の体験者の話など)</li> <li>・ 論文執筆</li> </ul>
12～1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論文執筆・整理・加筆</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平塚らいてう賞授賞式で昨年度奨励賞受賞者として研究発表</li> <li>・ 韓国留学生との懇談会(韓国の日常生活、市民運動の話を書く)</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明治大学山田ゼミ合宿(秩父)にて報告、</li> <li>・ 報告安井資料研究会・TOAFEC研究会の合同研究会で研究報告</li> <li>・ 『新しい歴史教科書の&lt;正しい&gt;読み方』(青木書店)刊行</li> <li>・ 韓国訪問(韓国の市民運動の話を書く、板門店を訪ねる)</li> </ul>

#### 4. 調査研究・研修の成果

研究の成果として、仕上げる事ができた記録

- 1, 原水爆禁止署名運動の前史として『なぜ、杉並で原水爆禁止署名運動が広がったか』の第一稿を書き上げた。
- 2, 安井家の資料の整理をし、安井資料研究会として、安井家資料目録の第一号、第二号を発行
- 3, 歴史教育者協議会発行『歴史地理教育』6月号に「杉並の教科書採択と市民運動」を執筆
- 4, ひらかれた歴史教育の会編『新しい歴史教科書の<正しい>読み方』（青木書店2007年）を発刊し、「杉並の署名運動と原水爆禁止運動」を執筆した。

形として残せたものは上記のものであるが、このほかに、杉並区内、区外で原水爆禁止署名運動に関わった方々、婦人運動に関わった方々、平和運動に関わった方々、研究機関、東京都、杉並区などに務め、仕事の上でピキニ被爆問題に関わった方、区議会議員や都議会議員を務めていた方々、またはその遺族の方26人の話を伺う事ができた。80才,90才を超える方々で、貴重な記録として、今後もさらに話を聞き、充実させていきたい。

立命館大学平和ミュージアムを訪ね、当時、運動に関わった方が寄贈された杉並原水爆禁止関係の貴重な資料を見ることができた。

原水爆禁止運動ということではないが、ドイツ、及び韓国の市民運動に触れることができたことは市民運動、地域作りの視点から貴重な経験であった。

#### 5. 対外的な発表実績

- 1, 平和のための戦争展（毎年新宿で開催）で、戦争の実態を伝えるコーナーで報告
- 2, 安井家の資料の整理をし、安井資料研究会として、安井家資料目録の第一号、第二号を発行
- 3, 歴史教育者協議会発行『歴史地理教育』6月号に「杉並の教科書採択と市民運動」を執筆
- 4, ひらかれた歴史教育の会編『新しい歴史教科書の<正しい>読み方』（青木書店2007年）を発刊し、「杉並の署名運動と原水爆禁止運動」を執筆した。

#### 6. 今後の展望

これからは上記の貴重な研究の成果を生かし、地域史、社会運動史、女性史の視点で、「なぜ、杉並で原水爆禁止運動が広がったのか」の研究をさらに丁寧に、実証的にふかめたい。論文としては、前史だけでなく、空前といわれる1954年の杉並原水爆禁止署名運動について論文を完成し、世に問いたい。その研究を通じ、杉並区の市民ネットワーク、市民運動についての考察を深め、杉並の市民運動の一助となれば望外の喜びである。

#### 高木基金へのご意見

今回高木基金より、貴重なご支援をいただき、心より感謝しています。初めての論文作成に苦労しましたが、今後の研究に向けての貴重な礎になりました。ありがとうございました。今だから言えるのかもしれませんが、最初に全員に発表の機会をいただくとさらに緊張感がわき、学びあいと研究するもの同士が知り合う機会になるかと思いました。今後も、緊張感を持続し、学び続けるつもりです。ありがとうございました。